

オーディオ実験室収載

ターンテーブルアキュライザーの活用(7) ーターンテーブルシートとの関係(1)ー

1. 始めに

前報(6)までは、それぞれの現在標準としているターンテーブルシートを使用してきましたが、ターンテーブルシートを替えてターンテーブルアキュライザーTACU-1の効果の確認をいたします。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴方法

今回の目的は、ネット上その他オーディオ仲間の情報から TACU-1 の効果の評価が随分とばらついていることから、TACU-1 の効果がターンテーブルシートの影響を受けているのではないかとということで試聴を計画しました。

アナログプレイヤーは LINN LP-12 を使用し、ターンテーブルシートを下記に替えて、TACU-1 の効果の確認を行います。

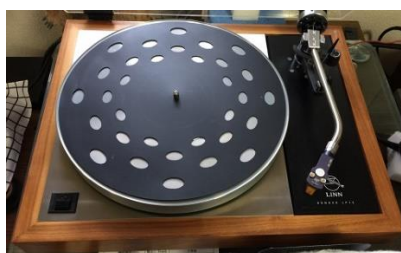
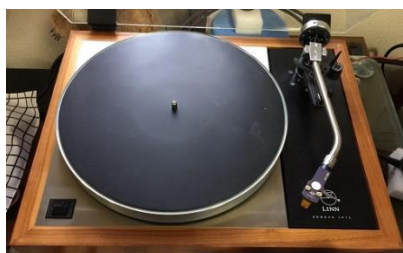
Achromat (標準)

フェルトシート (LP-12 付属品)

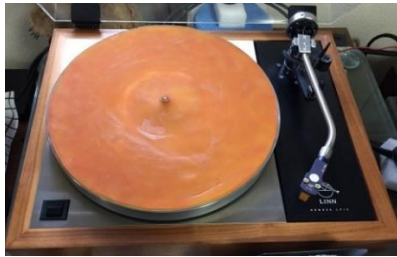


foQ シート A

foQ シート B



*A と B の違いは写真のように一面シートと穴あきシートの違い
自作アクションパッドシート 自作和紙シート (美濃紙)



音源は下記を使用します。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴結果

上記両盤とも、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12のAchromat (標準)は、[ターンテーブルアキュライザーの導入\(2\)](#)と[ターンテーブルアキュライザーの導入\(3\)](#)で報告しています。

上記のシートについてTACU-1の有無で音質が、どのように変わるかを調べていきます。

まずは、Achromat (標準)で上記のレポートの結果を再確認しておきます。

フェルトシートでは、TACU-1無では、Achromat (標準)より響きは良いものの焦点がぼやけ気味です。TACU-1有では、24の奇想曲は切れ味がよくなり、選帝侯のソナタでは響きが締まって焦点が合ってきます。

foQシートAでは、TACU-1無では、24の奇想曲は切れ味が良すぎてややヒステリックなところもあり、選帝侯のソナタでは響きがありすぎて焦点がぼやけ気味です。TACU-1有では、24の奇想曲も選帝侯のソナタもTACU-1無と比べて大差なく、foQシートAの個性を修正するところまでいきません。

foQシートBでは、TACU-1無では、基本的にはfoQシートAに似た音であり、TACU-1有では、TACU-1無と比べて大差なく、foQシートBの個性を修正するところまでいきません。

自作アクションパッドシートでは、TACU-1無では、24の奇想曲も選帝侯のソナタもAchromat (標準)に比べて音がぼやけて曖昧となり、TACU-1有でもわずかに音が締まったかなという程度で、ほとんど違いに気が付きにくい状態です。

自作和紙シートは、そのままでは厚みが不足し、ターンテーブルのエッジより低くなりますので、フェルトのシートの上に載せます。TACU-1無では、Achromat

(標準)に類似した響きや切れの良さを示し、フェルトのシートプラス和紙のシートは良い選択です。24の奇想曲も選帝侯のソナタもTACU-1有では響きが締まり、切れは幾分穏やかになります。

4. まとめ

ターンテーブルシートによってTACU-1の効果が変わることが分りました。すなわち、平面接触でシートの個性の影響がでやすいと思われるfoQやアクションパッドのターンテーブルシートではTACU-1の効果を顕著に認めることはできず、発泡樹脂製のAchromatやフェルトシート、フェルトプラス和紙のシートでは、TACU-1の効果を認めることができました。LINNの純正シートがフェルトシートであり、種々遍歴の結果、foQやアクションパッドのシートを止めてAchromatに落ち着いた結果に納得でき、さらにAchromatにTACU-1を加えて、良い結果が得られたことが改めて確認できました。これらのシートは一見平面接触のようですが、空気を含んでおり、素材との密着性はあまりないことが共通点です。

以上